

第7回宇宙輸送システム部会 議事要旨

1. 日時：平成25年7月25日（木） 16:00-18:00
2. 場所：内閣府宇宙戦略室5階会議室

3. 出席者

(1) 委員

山川部会長、白坂部会長代理、緒川委員、木内委員、鯨井委員、松尾委員、御正委員

(2) 事務局

西本宇宙戦略室長、明野宇宙戦略室審議官、山田宇宙戦略室参事官

4. 議事要旨

(1) 宇宙輸送システム部会の今後の検討の進め方

上記の議事について、事務局から資料1に基づいて説明したところ、以下のような意見があり、資料1「宇宙輸送システム部会の今後の検討の進め方（案）」については、一部追記するという事で部会として了承された。

○長期ビジョンの検討に当たっては、ワーキンググループによるたたき台を基に、それを鵜呑みにすることなく宇宙輸送システム部会で議論していく。

○「また、検討スケジュールについては、概算要求等の行政上のプロセスに応じて、柔軟に対応する。」との文言を追記する。

(2) 新たな基幹ロケットの開発着手に当たり、整理すべき事項について

JAXA、MHI、木内委員よりそれぞれ資料2、3、4に基づき説明があった。主な説明内容、意見は下記の通り。

○商業衛星の需要動向は、仮定した電気推進系の技術革新の進展等に応じ、3～6トンまで幅広いレンジにばらつくと思われる。

○衛星の仕様ありきではなく、価格や信頼性の面で強いロケットが衛星重量の動向を決めていく可能性がある。

○このような認識の下、低価格化や信頼性の向上に努めていく必要があると認識。

○H-IIAロケットとイプシロンの2つの基幹ロケットの間には、打上げ能力において空白領域があり、この領域をいかに効率的にカバーし衛星打上げ需要に柔軟に対応していくことが重要。

○世界市場で戦うにはコストの低減は必ず達成しなければならない。同時に国の自律性を維持するための基幹ロケットの位置付けも重要。今後、プロジェクトを進める上でコストや信頼性をフェーズごとに定量的に評価していく仕組みが重要。

以上